

1. 研究主題

ふるさと井尻に誇りをもち、自ら考え自ら行動する子どもの育成

～ICT の効果的な活用で主体的・対話的に学び合う姿をめざして～

2. 研究計画

(1) 主題設定の理由

本校は、島根県安来市の中山間地にあり、山や田畑に囲まれ、学校の裏には伯太川が流れる自然豊かな環境の中にある学校である。温かで優しい地域の人々や保護者に支えられ、子どもたちは明るくのびのびと学校生活を送っている。全校児童 13 名は、小さなころから共に育ってきた家族のような仲間集団で、お互いをよく理解し合い学年の枠を超えて仲よく活動したり遊んだりする一方で、小規模校ならではの限定的な人間関係から、苦手なことや嫌いなことを人任せにしたり、言いたいことを言わずに過ごしたりする面も見られる。

学習や活動には真面目に取り組むことができる。自信のなさから消極的になる面もあるが、見通しがもてると前向きに活動に取り組むことができる。しかし、表現力や語彙力が十分でなく、自分の思いや考えがうまく表出できないことが本校の児童の課題である。

第 55 回中国地方放送教育研究大会への取組みを通して、令和 3 年度からの 3 年間で ICT の活用で子どもの対話を生み、一人一人の学びを深める授業づくりに取り組んできた。ICT の活用によって、子どもが自分の思いや考えをもち、自他との対話によって学びを深める授業づくりの実践に取り組んできた。この取組みによって、子どもたちは ICT 機器（特にタブレット端末）を操作する力やメディアリテラシーについて学年に応じた力を身につけてきた。また、ICT の活用によって、自分の思いや考えをもち、それらをまとめて伝えたりすることができるようになってきている。また、他校の児童とリモートでつながり交流をしたり授業をしたりすることに、子どもたちは楽しさを感じ意欲的に学習活動に取り組むことができた。

市内小中学校の適正配置の協議が進む中、今年度本校は開校 150 周年を迎え、地域と一緒に記念事業に取り組むことになっている。子どもたちが身につけてきた ICT を活用する力や自分の思いや考えを対話によって深め、それを伝え合ってきた取組みを生かして、これまで以上に、人と関わりながらふるさと井尻についてより関心を深め、ふるさと井尻に愛着と誇りをもち、体験的な活動や小規模校のメリットを生かした学習内容の工夫と改善により主体的・対話的に学びを深めることで、自ら考え自ら行動できるようになってほしいと願い研究主題を設定した。

(2) 研究仮説

地域の「ひと・もの・こと・自然」や児童一人一人の興味関心を生かして学習活動を工夫・改善すれば、児童がふるさと井尻に愛着を感じ、主体的・対話的に学び合い自ら考え自ら行動する力を身につけていくであろう。

(3) 研究内容

- ① 地域の「ひと・もの・こと・自然」を生かした体験的な活動を通して、地域の魅力に関心をもつ学習内容の充実を図る。
- ② 小規模校だからこそできる学習内容の個別化を図りながら、ICT を活用し積極的に学習内容の集団化を図ることで児童の確かな学力の育成をめざす柔軟かつ多様な指導方法を工夫する。
- ③ 児童一人一人が主体的・対話的な学び方を身につける言語活動を重視した指導方法の改善と充実を図る。

3. 研究計画

生活科・総合的な学習の時間の題材を中心に、子どもたちが人と関わりながらふるさと井尻についてより関心を深め、ふるさと井尻についてより関心を深め、ふるさと井尻に誇りと愛着をもち、体験的な活動や小規模校のメリットを生かした学習内容になるよう工夫することで、これまで以上に、子ども一人一人が主体的・対話的に学びを深め、自ら考え自ら行動できるものにしていく。

月	2年 生活科 「とびだせ!井尻たんけんたい」	3・4年 総合的な学習の時間 「大好き!!伯太川」	5・6年 総合的な学習の時間 「幸せって何だろう?」
4	学校大すき!たんけんたい		幸せって何だろう?Part1
5	とびだせ!町のたんけんたい	伯太川の水を調べよう!	
6		伯太川の生き物を調べよう!	幸せって何だろう?Part2
7		もっと知りたい!伯太川	平和学習・地域
8			※継続型訪問指導①
9	井尻小の昔たんけんたい	伯太川で遊ぼう!	幸せって何だろう?Part3
10		伯太川のことを広めよう!	世界に目を向けよう
11	もっと知りたい!たんけんたい	※継続型訪問指導②	幸せって何だろう?Part4
12	※継続型訪問指導③		考えたことを伝えよう
1			

その他

- ・全国へき地教育研究大会課題別発表に向けた継続型訪問指導(夏季休業中に実施)
 - ・キッズスタジオ事業「井尻小学校開校150周年記念番組～私たちの井尻～」(仮)の参加
 - ・5・6年体育 保健領域の授業研究(小体連)
 - ・市教委 学力向上に係る学校訪問(前期:6/27 後期:未定)
- 授業づくりにおいて意識してほしいこと
- ① その時間に「子どもにつけたい力」を明確にして、中心課題と活動のめあてを設定する。
そのめあてをふりかえりに生かす。
 - ② B 評価を明確にして、授業の終わりに一人一人の児童が達成できたか、できていないかの評価を行う。また、達成できるような支援方法・手立てを考えておく。

4. 検証方法

- ① 地域の「ひと・もの・こと・自然」を生かした体験的な活動を通して、地域の魅力に関心をもつ学習内容の充実を図る。

→すべての教育活動において、地域の「ひと・もの・こと・自然」を生かした体験的な活動を記録する。

→児童の地域への関心が深まったかどうか活動の事前・事後でアンケートを行う。

→学校評価アンケート等で、児童の地域への関心が深まったかどうかを把握する。

- ② 小規模校だからこそできる学習内容の個別化を図りながら、ICT を活用し積極的に学習内容の集団化を図ることで児童の確かな学力の育成をめざす柔軟かつ多様な指導方法を工夫する。

→活動の導入において児童一人一人の興味関心を把握し、活動後にその興味関心に応える活動内容となっていたかを検証する。

→ICT の活用や柔軟かつ多様な指導方法が「子どもにつけたい力」をつけることができていたか学習後に検証する。

- ③ 児童一人一人が主体的・対話的な学び方を身につける言語活動を重視した指導方法の改善と充実を図る。

→生活科・総合的な学習の時間を中心に、活動の中で重視した言語活動を記録し、主体的・対話的で児童の思考に深まりのあった活動を記録していく。

→児童が学び方を身につけているかをすべての教育活動を通して評価することで、学びのつながりや教師の指導方法について検証する。

→教師が主体的・対話的に授業づくりを行い、授業改善ができたかをふりかえる。

○検証方法については、もう少し検討し整理していく。(7月の研究職員会で検討)